

# ユニバーサルデザイン論

必修

開講年次：2 年次後期

科目区分：講義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：ユニバーサルデザインを生み出す背景となった現代社会の高齢化、IT化に伴う社会システムの複雑化の現状等を理解した上で、ユニバーサルデザイン開発方法論について学習する。障がい者や機能の低下した高齢者のみならず多様性を持つ健常者の心身特性や生活実態を理解し、すべての製品・システム・サービスが具備すべき特性とそれを実現するためのプロセスや方法論について事例を交えて学習する。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（その他）である。

■**到達目標**：①ユニバーサルデザインの理念や対象となるユーザーの特性を理解する。  
②ユニバーサルデザイン開発に必要な評価基準や方法論の基礎を習得する。

■**担当教員**：

小宮 加容子

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 ユニバーサルデザインの背景
- 第 2 回 ユニバーサルデザインの基本原則
- 第 3 回 身の回りのユニバーサルデザイン
- 第 4 回 関連法規とガイドライン
- 第 5 回 多様なユーザー特性（障がい者）
- 第 6 回 多様なユーザー特性（高齢者）
- 第 7 回 多様なユーザー特性（子ども）
- 第 8 回 ユーザビリティ評価
- 第 9 回 ユニバーサルデザインの評価視点
- 第10回 ユニバーサルデザイン開発プロセス
- 第11回 カラーユニバーサルデザイン
- 第12回 まちづくりとユニバーサルデザイン
- 第13回 情報・コミュニケーションとユニバーサルデザイン
- 第14回 遊びとユニバーサルデザイン
- 第15回 まとめ

■**教科書**：適宜プリントを配布する

■**参考文献**：講義の中で適宜紹介する

■**成績評価基準と方法**：演習レポート30%、授業内課題50%、授業態度・発表20%

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
演習レポート	◎	○	基本理念や対象となるユーザの特性を理解していること	30
授業内課題	○	◎	評価基準や方法論などを理解していること	50
授業態度・発表	○	○	積極的な姿勢。	20
出席			2/3以上の出席	欠格条件
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：身の回りの施設・設備・機器等を日頃からよく観察するようにしてください。また、教科書を使用しないため、学習内容の要点を要領よくメモするよう習慣づけてください。